

## 第 24 回安平町子ども・子育て会議

<b>内容/議題</b>	・協議事項 1 件 ・報告事項 1 件 ・委員発議 1 件 ・その他 1 件		
<b>日付</b>	2024/11/01 15:00～	<b>場所</b>	安平町総合庁舎 大会議室

### 概要

- (1) 委嘱状交付
- (2) 協議事項 第 3 期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性
- (3) 報告事項 こどもにやさしいまちづくり事業（CFCI）進捗報告について
- (4) 委員発議 はやきた子ども園 現状と課題
- (5) その他 こどもまんなか応援サポーター宣言

## 詳細議事内容

開会 15:00

事務局

【 開会挨拶 】

日程（１）【 委嘱状交付 】

日程（２）【 町長挨拶 】

日程（３）【 協議事項 】

事務局

「第3期安平町子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性」について

- ・生涯学習計画と一体的に策定をしていくことの説明
- ・策定に関する住民参画や目標について
- ・計画書のつくりについての説明

次回会議時には計画(案)を提示し、3月までに策定を進めていく

委員長

ただいま説明が一通り終わりましたので、何か疑問であったり、分からないことがあればご発言お願いいたします。左側の第2次総合計画が平成29年から令和8年で10ヶ年計画になっていますが、上の第3次総合計画は令和9年から16年での8年間計画になっています。従来ずっと安平町は10年計画で、基本構想10ヶ年で前期後期の基本計画という作り方をしてたんですが、町長の公約、任期が4年なものですから、選挙の次の年に総合計画を作成して前期後期という形にスケジュールを合わせるために、現在は前期2年、中期4年、後期4年になっています。今は10年計画後期の3年目になっています。上の第3次これから作っていくものは、前期後期4年4年構想の8年計画になるということを補足で説明させていただきます。分かりやすい説明だというふうに思いながらも、2行目の「町民自らが人格を陶冶するとともに」という辺りが、読んだ中でちょっと一般的じゃないと思います。下に解説はあるんですけども、例えば「町民自らが生まれ持った資質や才能を円満に発達させるとともに」みたいな、解説をそのまま中のフォームに入れた方が陶冶って読めなかったり、意味も分かんなかったり、これがずっと続くのであれば分かりやすい方がいいというふうに思います。私から2点ちょっと意見とか言わせていただきました。皆様何かあればお願いしたいと思います。

委員

2ページ目になるんですが、第3期子ども子育て支援事業計画の策定に向けた方向性のところ、1割の意見のことでちょっとお話ししたいなと思います。様々なアンケートがあって、1割の記述式で書かれていること、ここやはり注目した方がいいなと私は思いました。その中で「早来学園の校舎が見映えはいいが、使うのが不便なところがちらほら見られる」とあって、ここ実際は今の状況はどうなのか、子どもから様々な意見があるのかなと私考えてます。それで、今住んでる近くに、中学生に通う子ども、小学生に通う子どもがいて、その子達は生まれた時からずっと観察しているか互いのこと見れるんですね。色々気軽に話できる関係を築いてきたつもりなんですけど、その中で今各授業を受ける時は、教室が変更して教室移動は激しいんだってということなんですよね。それってや

はり自分にとっては非常に負担だっという意見がありました。まあ何人かの子どもしか聞いてないので、他はどうかかなと。私自身、中学生の頃、札幌のマンモス中学にいました。13 か 14 クラスだったんだけど、そういう学校でも移動して歩くことはほとんどなくて。今のそういう学校教育って、授業とともに子どもがその場所を変更して歩くということなのか、それが教育として効果的だったらやむを得ないのか。やむを得ないっていうよりも、本当に子どもからそういう問題があるんで実際はね。なんとか改善できたらいいなと。聞いた以上は、見過ごす、看過できないなと思って。こういう場でしたけども、出させていただきました。実際は、先生方も今の学校教育、今日いじめの問題がセンセーショナルに新聞にどかって出てましたけども、やっぱり大変な状況なんだろうって思うんですよね。その中で子どもを据えた町づくりをするってことであれば、より使いやすい学校、せっかく素晴らしい環境だと思うんで、それはどんどん突き詰めていってほしいなと。そして、子どもにもそういう意見があるんだっということも押さえて、できたら改善していって欲しいなと思います。

## 事務局

早来学園の校舎建設の段階から教科センター方式と乗り入れが可能な、そもそも、小中一貫校という形で教育を進めるという方針に基づいて始めたことです。基本的に先生方の乗り入れだけですと、前期課程の教室で先生が教えるってだけで済みますが、実際には昨年から取り入れている教科担任制と教科センター方式を効果的に進めています。例えば音楽も、1 年生から全て専科に入るとかそういった活動に基づくと、だんだんと行動の範囲が広がるという形でできています。そこも、今現在、文科省が義務教育学校化にということで率先してやっている状況です。その形を考えれば、旧態依然の教育で限界が生じていると言い難いところではあるんですけども、やはり次のステップに向けて進めるべき 1 つのモデルですので。今日も実は公開研究会が早来学園で行われて、その辺の質問もありました。その中で、学校としてはその辺のデメリットについて大きな声としては上がっていないという形で説明をしています。この早来学園のシステム全てを考え直すとなると、先生の働き方から全て大きく変わってくる場所がありますから、そのデメリットが果たしてこれからの教育の本当のデメリットなのか。私たちはむしろ、これからのメリットになるような取り組みとして進めています。決してこの意見を無視するとかではなく、今、本当に改善できることがあれば受けたいと思うんですけども。後期課程のこの教科センター方式を従前の方式に戻すとなると、物理的な施設改修は無理かと思うので、そうなると教科担任を減らすとなり、それこそ小中一貫教育が減るといった話になりますので、その辺はご意見として伺った上で対応していきたいと思えます。

## 教育長

貴重なご意見ありがとうございます。いただいたご意見については、しっかりと早来学園の方に伝えたいなと思います。子どもが言った意見というのは、本当にその真摯に受け取らなきゃいけない。受け止め方なんですけど、その背景にあるのは何なのかっていうところに迫らなければいけないかなと思ってます。現状で行くと休み時間が 5 分なんです。で、以前の教室移動がなくて休み時間が 5 分と、たくさん教室移動がある中での休み時間 5 分だと、同じ 5 分でも変わってくるだろうなっていうのがあったりとか、あと早来学園は 1 年生の教室から木工室まで 100m 以上あるんですね。それぐらい広い学校なので、じゃその移動に対する子ども達の身体的な負担がどうなるかということだったり。もしくは小学生は整列して移動してます。となると、この 5 分間で 1 回並んでみんな揃ったのを確認して、さらに移動していうところがもしかしたら影響しているのか、いないのか。そして中学生にしたら 5 分しか移動時間がない中では、2 つぐらいの教科をまとめて持って移動してたりするんです。となった時にはその持ち物ですね。持ち物が多くて、それも重たい物を持って移動というものなのか。なのでこの「大変」というものにどういったものが含まれてるのかを、もう少しこちらの方でもしっかりと子どもの側に立って、もしくはヒアリングなどをしてどういったことができるのかというところを考えていきたいと思えます。こどもにやさしいまち安平町としては、まずはその子どもの思いに迫りながら考えて、子どもがしっかり意見表明をしたのであれば、その意見と向き合うということ大切にしていきたいなと思っています。まずは学校側に伝え、現状を把握して、そしてもう一度聞けるのであれば

子どもにも聞いていながら学校として考えることなので、学校側に向き合って考えてくださいというような話することになるかなと思います。

委員長

事務局から現状と学校建てた経過含めての説明をしていただいて、教育長からは今説明した通りでありますので。そういった形でちょっと難しい問題でありますけれども、そういったところにご意見をいただきながら解決していきたいと思います。この事業計画の方向性に関して、またこの説明の中で質問、疑義があればお願い致します。

委員

今のところのアンケートの評価についてなんですけれど、最初の子どものアンケートのところでも 8 割以上が意見を聞いてもらえているという回答が出るんですけど、先ほども言っていましたけど、その 1 割弱の子どもの扱っているか、そこがやっぱりすごく問題だと思うんです。1 割しかいないんじゃないって 1 割も聞いてもらっていない。親に対しても、たぶん先生に対してもってということがあると思うんです。そういう子ども達が聞いてもらいたって本当に思ってるけれど、話をする相手、相談相手がいないってそういうことが今朝の道新もそうですけれど、いじめの問題だと不登校に繋がっているってことが言えると思うんです。2 つ目のところで教員のアンケートのところですけど「よく知っている」から一歩進んで「取り入れている」が増えるよう云々って評価になっていますけれど、少し知っているというのが 48.5%。私の偏見かもしれないですけど、教職員が「少し知っている」っていうのは、知らないって考えてもいいのではないかと思います。子ども達は権利の主体であっても、直接やっぱり権利を行使できないっていうか、大人が周りの先生や父兄などの人達が、どれだけ子どもの思っていることを受け止めて代弁していく、変えていくってことが大人の責任だと思うんです。だから教員で 50%が少し知ってるだったら知ってないと思うので。権利がどうのこうの、子どもの権利とはってというのは大体大学で学んでくるわけですけど、実際に教員となって子どもと接して戸惑うし、そこで権利ばかり教えてると、わがままな子どもが育って来て思っている先生って結構いるんですよ。そういう、昔言われたわがまま論を、この今の権利のことが分からない先生が主張していくと、やっぱり大変なことになっていくし、実際にその部分で子ども達を本当に生き生きと育てていくってことがやりづらくなっている。その先生が何人かいることによって、周りの変えていこうとする先生が結構抑えられていく部分があると思うんです。私、子どもの権利の本とかも買って読んだり、この間、道新に「子どもの声を聞くために」って北海道子どもセンターから出たので取り寄せて読んでいくと、本当に学校の先生や地域の人や、あと放課後の先生とか、こじかクラブとか、色々な人達が実際に努力して、いろんなことを変えていこうとしている人がたくさんいるんだなっていうことで、すごく勉強になりました。ちょっとずれるんですけど、私ずっと気になっていたんですけど、いつも「日本一の公教育のまちづくり」っていうことで出てるんですけど、いつから日本一のなんとかって出てきたのかなってちょっと昔の資料とか見てみたら、ちょっとはっきりいつからって分かんなかったんですけど、悪くはないし今回の皆さんの話で、みんなが考える日本一の公教育ってなんだろうとか豊かな人が育つまち、自分を作る自分を生きるってことで出てるんですけど、私ちょっと嫌だっていう感じ。なんか、日本一とか世界一って競争な感じがあって、全国で本当にいろんな町で自治体も先生もみんな頑張っていて、いろんな素晴らしい実践をやっているんですけど、日本一を目指すみたいなそういう意味ではないんでしょうけれど、ちょっと私この「日本一の公教育のまちづくり」って言葉が、私だけかもしれないけど、ちょっと嫌です。以上です。

委員長

事務的なことじゃないので教育長。今日の新聞とかでも日本一の公教育の考え方が記事に載ってたし、この間の町政懇談会でも、ある方から日本一ってようなご指摘はいただきましたけど、ちょっと感じる方もやはりいらっしゃるんだろうなとは思っています。

教育長

まず、1 点目の 1 割でも聞いてもらえてない子どもがいるっていうのは、まさしくその通りだなと思います。この 1 割

がもし全数調査で全員にっていうのは、同じ 1 割でも全体の人数だったら増える可能性があつて。そういうふうにして捉えた場合には、安平町が目指すんだったらゼロ人だよなっていうところを気概としては持ちたいなというふうに思います。じゃあそのためにどうするかっていうと、聞いてもらえる大人を増やさなきゃいけない。大人の側がその眼差しを持たなければいけない。もちろん先生方もそうですけど、大人の側もとなると、親だけではなくて親以外の大人もということになるのかなと思います。合わせて関連するのが、もう 1 つご意見いただいた、先生方の「知っている」というのは「少し」ではなくて、「先生方は知っている」というところがまずは基本なのではないかということについても、それも全くその通りだなというふうに思います。ただし、もしかしたら今年初めて安平町に赴任してきた先生で、今までそういったところに十分意識が及んでいなかったという先生に関しては「知ってます」とまではまだまだ言えないというところが、こういった回答になるかもしれません。ただそうだったとしても、割合で言ったら今年赴任した先生って何人いるというのを考えると、もうちょっと低くなるなというところもあります。実は、本日の 12 時に安平町のホームページにリリースされてるんですけども、委員会としてもしっかりその辺りを認識してるんで、来年度、教育情報発信の地域おこし協力隊というものを配置します。それは、この辺りのところの、やはり子ども自身にも、あなた達には意見表現をする権利があるんだよということ子どもにも伝えなければいけないですし、保護者や地域の方にもこういったものが大切なんですよということをしっかり伝えなければいけないだろう。今まで安平町はどちらかというと、子育て教育の町ですということ対外的に、まあ移住定住の絡みもあるんですけど、外向けにはしっかり発信をしてきたんですけど、内向き、保護者や町民の方へ発信っていうのは、こういった結果を見るとまだまだ足りないところがあるのではないかと。だけど、働き方改革もある中で学校の先生に今以上頑張ってくださいというのも難しいのであれば、教育委員会として地域おこし協力隊の力も借りながらしっかりと安平町が目指していく教育というものを伝えていきたいなと思ってます。そして、最後の 3 点目の日本一というところは、そういった意味を感じられる方ももちろんいらっしゃるかなと思います。なので、この教育情報の発信の中で安平町が目指しているものは、どこかの町との競争ではなくて、これはこちらの文章にもあるように自分らしく生きていくことを主観的に私が自分らしく生きているんだっていうことを感じていたら、それが一番大切ですよ。それは性別だとか年代とかに関わらず。なので、ここの日本一の公教育っていうところの説明には「子ども」という文面は載ってないです。それは、いくつになっても自分らしく生きていけるって素晴らしいよねっていうことなので、そういったことをしっかりと子ども、学校だけではなくて、保護者や町民の皆様にも伝えていこうな取組はしていきたい。ただし、この日本一のって、日本一という言葉を使うことに対するイメージに対して、今、委員からもご指摘がありましたので、町として外向きに発信したり取り扱う時には、そういったことも考えられるということ肝に銘じながら、丁寧な説明で早まった受け取られ方をされないように配慮して使っていきたいと思いました。

## 委員長

日本一の公教育っていうのは、現時点で総合計画に謳われてはいません。そういったことが計画されて何か位置づけられていませんが、安平町の CFCI の取組の中で一番びったりくるスローガンが使われているということなんです。インパクトがある言葉であることには間違いありませんが、違った意味で取られて学校一番にするのかってよく年配者から言われます。学校じゃないんです。公教育っていうのは社会教育、生涯学習。大人、お年寄り全部含めてのそういった環境なんですっていうのがきちんと伝わるように、あまり難しい言葉も使わないようにしながら伝えていかなきゃならない。安平町民みんなが理解するのが必要だと思ってますし、先ほど申し上げた第 3 次総合計画の基本構想、ここにも位置付けたい。さらには子どもの教育条例化ですね。条例化の中できちんとそこを謳っていくという形で。条例作ってから何か下ろすんじゃないくて、積み上げて最終的には一番上位に来る総合計画と条例。その中にこういった言葉も含めて整理させていただければ。そこは正式に決まっていくプロセスとしてはまだ若干時間を要するかと。非常にそこは重要と我々も思っていました。貴重なご意見ありがとうございました。

日程(4) 【報告事項】

事務局

「こどもにやさしいまちづくり事業（CFCI）進捗報告」

- ①総合的な学習の時間について
- ②あびら CFCI 研修会の実施について
- ③早来学園ルールメイキングプロジェクト始動について
- ④LPM の着任（こどもにやさしいまちづくりプロジェクト）について

教育長

公教育ということ考えた時、子どもだけではなく世代に関わらずなので、たくさんの分野が必要。

課題として早来地区の移住集中と、追分地区の人口減少。

- ・早来学園が報道等で取り上げられることが多いが、教育内容は同じ。
- ・しっかりと追分地区の魅力というものを高めつつ、しっかりと伝えていく。

〈地域プロジェクトマネージャーを2名体制にする〉

- ・学校の中を中心に具体的に魅力化していく→1名
- ・学校と地域を繋げて地域を盛り上げていく →1名

〈教育委員会に専門職員1名〉

- ・不登校対策として不登校のお子さんやその家庭を支援

〈地域おこし協力隊3名〉

- ・追分高校魅力化コーディネーター →地域、中学校と連携しながら追分高校の魅力を高める
- ・幼保小の架け橋 →小学校とおいわけ子ども園の接続
- ・多世代コーディネーター →大人に対してもあびら教育プランのような場を提供

以上のプロジェクトを教育委員会事務局がサポートに入りながら教育長直下で進める。

進捗状況を教育委員会で逐一報告する。

○追分中学校を教育活動時間外に地域開放する取り組み

委員長

追分高校の存続の関係で課題になっていた入学者数、今年度33名入って1回リセットがあったので、これから存続支援協議会というネーミングも魅力化支援協議会なのか、そういった形でちょっと変えて、教育長が説明したような方向でやってきたいなというふうに思っています。追高校長先生の方から補足があれば。

委員

ありがとうございます。今年33名入学していただきまして、学校説明会も先ほど言いましたように29名、さらに色んな中学校から問い合わせいただきまして、毎月のように生徒・保護者、先生含めて来校いただいております。今後もそういった随時説明会も予定されておりますし、道外募集についても考えていかなければならないと思っています。なんとか、今年並みの生徒を確保したいと動いているところでございますのでよろしく願いいたします。

委員長

今、道外募集という言葉が出たので。例えば、道外から1人追分高校に通いたいという場合、寮がないんで

すけども、去年ホテル渡辺と話し合いを重ねて、住み込みみたいな食事付きで部屋を用意してあるということで、受け入れは可能なので。追中校長先生何かあれば。

委員

学校だけでは何ともできない部分が出てきますので、その部分で皆さん方のご協力いただきながら、追分中学校も地域開放という形で地域のコミュニティの場として中学校を開放することで、子ども達の健やかな成長も図れるかなという想定で、今進めさせていただいているところです。直接、学校の方来て見ていただくというのも1つですので、ぜひ、その際には学校の方に足を運んでいただければと思いますし、子どもの少子化については、小学校、特に今これから激しくなっていくんですけども、中学校も近い問題ではありえます。具体的な話をしますと、複式になりますと中学校の場合、教員が一気に半減してしまうんですよ。そういうことも考えると、これから少子化ってところに対しては、皆さんの力をいただきながら、とりわけ追分地区については、そういう所も含めて学校を魅力化していくってことは一つの施策なのかなというふうに感じております。私もできる限りのこと、尽力したいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

委員長

今日11月1日であびらチャンネルの放送が切り替わったんですが、早来学園のスクールフェスティバルと追分中学校の学校祭、そこも今放送されていますので、ぜひご覧いただきたいと思います。おいわけ子ども園園長先生は何かありますか。

委員

先ほど言ったように今年の年長さんが9名で、町外から2名来ている関係で7名。来年度も先ほど11名という話がありましたが、障害者が4名いるので、まあ11名と。なかなかその、園の園実から見えない、追分地区自体の子どもの減少率がかなり。そもそも子育て世帯の減少もあるんだと思うんですけど。そういった課題、これから移住者をどんどん取り込むってところを、私の園でも頑張らなければいけないし、地域あげて町としても頑張っていただけるのかなと思うんですけども。なんとかその早来の方に一極集中ではなくて、早来も追分も両方ともこう移住者が集まっていけるような教育ができればなと思っていますので、地域の方とも協力してやっていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

教育長

中学校の部活動が、来年度末の令和8年3月で全て無くなります。今、残っているところが早来学園のソフトテニス部、卓球部、あと吹奏楽部、追分中学校においては美術部の4つが今部活動として残っています。それ以外は全てクラブ化しました。この中で吹奏楽と美術というところが文化系で残っています。これに関しては、町の大きな方向性としては早来地区が比較的スポーツが盛んな地区、せいこドームを含めてそういった施設が多くあります。もちろん追分地区にも今現在、プールも含めてありますので追分地区のスポーツが全く無くなるというわけではありません。ただ一方で追分は文化活動を行う拠点となる公民館がありますので、そういった地域の特色とかも生かしていきながら部活動の視点だけではなくて、安平町全体のスポーツ文化環境をどうするかという視点で整理して、こちらもより充実するように進めていますので、そのことも報告いたします。

委員長

関係者含めて質問していただきましたけども、CFCIの取り組みについて何かご質問等あれば、よろしいですか。

日程(5) 【委員発議】

委員

「はやきた子ども園の現状と課題」

① 取り組み状況

生活と遊びを織りなしながら子ども達の深い探求心に繋がるような活動を実施

- ・「繋がり」を大切にしている 高齢者さん、早来学園、放課後児童保育所の色々な世代の子ども達同士が関わりながら活動。

② 少子化の状況

来年の 2 歳児 1 歳児とゼロ歳児は少ないというのは確定。

今年度移住で入った子どもの数が 185 名中 9 名。

人数がなかなか見込めない中、運営的に厳しい →職員の確保の運営費が課題

③ 課題検討

・玄関前の安全対策 玄関と駐車場の間に柵を設置して子ども達の安全確保できないか。

・通報システム導入 DV 等の付きまとい、不審者対策。

・居場所確保 放課後児童保育所と児童センターの利用者が増える。場所の確保と職員の確保

・今後に向けて すぐにお金を動かせる仕組み作り。スピード感とその流動性。園だけの話じゃなくて、学校とか高校とかでもそんな場合ないのか。教育応援分という形のふるさと納税など。

・その他 子どもの居場所確保と職員の確保という視点で、発達支援事業の方を進めようかと考えている。支援事業やることによって、事業費が入ってくるのでその事業費で職員を補充できる。

④ 一時預かり料金の改定

・現行 町内外一律 890 円

・移住体験などで町外、道外からの一時利用が大幅に増え、職員の事務量や負担感も増大

・町内、町外、回数、時間帯によって金額を設定

委員長

不審者とかそういったのはどこの町でも話題になっていて、犯人は先月逮捕されたんですけど、二町組合のゴミ処理組合でも夏場に空き巣が入り、来年度に向けて事務所内にダミーはついてはいるんですけど、ちゃんとした防犯カメラを中に付けることを検討しています。あと「ほくとポリス」というアプリがあって、その中に様々な防犯メールがあり、苫小牧市での不審者情報が随時見ることができます。お金をかけず苫小牧管轄のこういった情報も入手できる仕組みもあるので、ちょっとご紹介させていただきました。何か補足あればご説明ください。

委員

そうですね。通報システムはやっぱりいいなと思います。すぐ警察の方に知らせていただければ大丈夫ですし、普段からパトロールをして積極的に安平町内に異常が無いかどうか見させていただくんですが、どうしても細かな部分でこういう人がいるとかなった時に、こちらで積極的に把握できない場合があります。その時はすぐ言ういただければ、すぐ片付きますし。どうしても 24 時間 365 日勤務じゃないので、私も休みの時もあります。そういう時は隣の安平駐在所や追分、遠浅からも来ますので。とにかく早く知らなくちゃいけないので、導入できるのであれば導入していただきたいと思います。

委員長

子ども園関係の説明があったので、何かございますか。

委員

安全対策、これすごく重要になりますし、あと玄関前の件も、お母さん同士のコミュニケーション取る場所ってどうしても必要になってくると思うので、安全を確保して頂ければ非常にありがたいなと思います。

委員

追分の人口や早来の人口の違いで、どうしても子ども達の差ができてしまうんじゃないかということが考えられるので、そこが一番警戒してます。町ぐるみで進めていけるということを、みんなが意識しないと進んでいけないと思うので。

委員長

町としても、早来学園効果で移住が増えてきてるって嬉しいことありますけども、地域バランスがだいぶ差が開いてきているのもやはり課題だっていうふうに受け止めております。しかしながらそういったニーズもあるものですから、早来地区の住宅地の整備などしてくんですけれども、追分地区にも重点的に様々な施策も打っていかうということで、教育サイドを含めて町サイドも実施計画今作っております。ただ、例えば人口が100人だと追分に増えたとしても子どもの数は10人ぐらい。としたら、学年に1人か2人しか増えない。だからバランスを考えると相当な形で追分地区にシフトしていかないとならないんじゃないかという押さえはあります。新規就農の方が追分地区の方に中心的に移住しているので、これからも一定数そういったところは見込めるのかなと思いつつも、JR石勝線の存在、高校生が通うとすれば札幌圏も含めて追分の方が通いやすいというのはやはり強みになります。これから次世代半導体のラピダスというよりも、その関連企業が千歳・恵庭圏に当然張り付いてくるでしょうから、そういったところのベッドダウン的な位置づけとして、早来だけではなく追分もJRで通えること、高速道路もあって札幌圏には近いといった強みも含めてやっていきたいと思っています。今日の子ども・子育ての支援事業計画からはちょっとテーマ的にずれますけれども、町としてもそういう動きで早い段階からやってるんですけどなかなか。安平町は社会人口2ヶ年連続転入が上回っていて、高齢化率も若干下がってきてるところは、他の町と比較するとまだプラスの面はあるんですが、まだまだそこはちょっと偏っているところを意識しながらやってきたいと思います。あと全体通して何か皆様方の方から質問であったり、ご意見があればお願いしたいと思います。

委員

意見とかではなくて、共有した方がいいなっていうことでお話させてもらうんですが、北海道新聞に今日でかかど道内いじめ49,149件最多って出たんですね。これが1面に出て、次社会面にはすごく詳しく載っていて、教員見過ごし、見過ごし後を絶たずって。教員を全面的になんていうか、やり玉ったら失礼だけどちょっと上がってますよね。現場に居た私としては、非常にこれはちょっと心外だなと思うし。それと次、じゃれ合いの発展だということで見過ごししてみたいですね。ある例は。ということで、非常にちょっとこれ、件数はあまりにも多すぎないのってことでドキッとしました。それで、さらにこの不登校とかそれからいじめですね。いじめが深刻にどこに影響を及ぼしてるかったら、家庭に影響を及ぼしてんですね。そして端的にちょっとお話しすると、子どもの不登校で起きた保護者の変化。これは非常に私ですね、勉強不足だったなって。ここまであんまり考えたことなかったなと思いますけど、ちょっとバーってお話します。まずお父さんお母さんが、気分が落ち込むと。まあ当然ですよ。我が子がそういうふうに陥ったら。あと孤独感。自分うちの子もだけなぜこうなんだ。いじめられるんだ。当然出てくると思うんですよ。それから3つ目が体調不良。胃腸とかやられて、もう体が壊されてるんだと思うんですけども、あと精神科受診。保護者ですけど精神科受診する。それから、子どもが嫌いになった12.3%。ここはこの辺も親子関係の弱さがあるのかなと思うんですけども、そういうふうに変わってくると。死にたいと感じた。親が死にたい。それから子どもを叩いてしまった。これはよくあるかもしれませんね。ちゃんと学校行け、こんなことに負けるなとかね。相手をやっちまえて言う親もいるかもしれませんよね。それから特に変化なしっていうのはわずか11%ということで、非常にこれからの未来ある親、きつとまだ若いと思うんだよね。子育て最中ですからね。それと子どもの未来をもう破壊するということで、本当にこのいじめとか、それから不登校ですね。不登校は、本当に真剣に対応してかなければならないと。学校だけでは絶対、僕自身は解決できないと思うし、社会全体で問題として考えていった時に、何か核になる考え方が強制したら、これ道徳を強制した問題ありますからね。なんか必要なものがあるんじゃない

いか。そして今ちょっとふっと考えたら、仏教の考え方って僕はすごく今大事だなと思ってるんですよね。その中に慈悲という考え方があるんです。平らに言うと、平等に思いやりする。思いやりですね。それから自利利他って言って自分も利するけども、自分を大切に利益を取るけども他人の利益も大事にしなさいということですね。他人っていうのはその人間ばかりじゃなくて地球上に生きる物全てです。生き物、植物から動物から昆虫から全てを大事にするという、そういう根本的なこともしっかり教えてかないと、学校だけではなんぼ対応しても駄目ですよ。今回も大学生が大きな事件起きましたよね。あんなとこで、あんなことが起きるといのは、非常にやっぱり根本的なものが育ってないんだなって。例えばそういう場面に出くわしたら、そのノリに乗るんじゃないかって、ちょっとやめるべやとか、ちょっとおかしいんじゃないのかってこう言えるような、周りに巻かれない。それこそ自己、自分のアピールする権利、発言権、それこそそういう時に必要だと思うんですけど、そういうところをみんなでやはり大人は子どもを支援していかないと駄目だということ、つくづく今回この記事見て感じました。このことは触れないと思ったんだけど、ついつい触れてしまいましたけど。以上です。

委員長

はい、ありがとうございます。道新取ってる方、記事読まれて同じような感想で思われたんじゃないかなって思います。この後、1つ事務局の方からお願いと説明がありまして、お時間いただければと思います。

事務局

【「こどもまんなか応援サポーター」宣言】説明

委員長

それでは、この後の写真撮影に向けた流れについてもご説明をさせていただきました。全体通してさらに何かご発言があればお願いしたいと思います。よろしいですか。（なし）

【こどもまんなか応援サポーター宣言】

安平町は、子どもたちのために何が最もよいことかを常に考え、子ども達が健やかで幸せに成長できるような社会を実現するという「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同し、こどもまんなか応援サポーターとして「こどもにやさしいまちづくり」をより一層進めていくことを宣言します。令和6年11月1日 安平町長 及川秀一郎。  
どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

では写真撮影に移りたいと思います。こちらで終了となります。ありがとうございました。

閉会 16:47